「四国防災八十八話」紙芝居の感想

多喜浜小学校　五年　高橋　真子

今日、四国防災八十八話の中の「まっくら な中のあかり」という紙芝居を、愛媛大学の先生たちにしていただきました。災害は、みんなの体と心をふるわせるほどこわいんだなあと感じました。また、初めて知った事は、山の木がないとだめだという事です。木がないと土のベッドに水をたくわえることができず鉄ぽう水がでたりするのです。また、山に緑が少なくなると、地球温暖化が進み、人々のくらしや、環境にも悪いと私は考えます。災害がおきると建物がこわれたりするので、けがをしたり、死んでしまったりする人が多いと思います。また、不安でねむれない人も多いと思います。紙芝居の中で出てきたお医者さんは、あかりもなく、まっくらな中で包帯にとう油をかけあかりをともしました。そんな知恵と工夫を私達もつけていきたいと思います。私達の所にもし災害が来たら、落ち

20 × 20

ついて、身近にある物で何か工夫できないか

と、知恵を働かせてみんなの心が明るく元気

になってもらえるようにしたいです。また、

学校でしているひなん訓練や防災訓練などに

も、しんけんに取り組んでいきたいと思いま

す。

20 × 20